

# 日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究科学位論文審査基準

## [博士前期課程]

### 1. 評価項目

学位申請論文の審査には、審査委員会委員が次の 6 項目について別表の評価基準に基づいて評価する。

- (1) テーマのたて方：実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されていること。
- (2) 研究の背景：複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を示し、整理し、自分が明らかにしようとしている研究目的に関連付けていること。
- (3) 研究の方法：目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示していること。
- (4) 研究の結果：研究で得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討していること。
- (5) 考察と結論：研究から明らかになったことについて記述し、専門基礎知識を用いて論理的に説明できていること。
- (6) 参考文献：適切に引用していること

### 2. 評価方法及び判定

- (1) 各審査委員が、別表の評価基準に基づいて各評価項目を 5 点、3 点、1 点で評価する。
- (2) 論文審査（本審査）では、全ての審査委員が 20 点以上（30 点満点）をつけたことをもって、論文審査を終了とし研究科委員会に報告する。なお、審査委員により著しく評価点に差異がある場合は、新たに審査委員 1 人を追加し、再評価を行った上で、審査委員長が総合的に判断をする。

### 3. 審査における要件及び最終判定

次の 3 つの要件を考慮し、当該分野に関する専門的知識と実践的能力を身に付け、問題把握・解決能力を備えているかどうかの評価を行い、研究科委員会において修士の学位授与の最終的な合否判定を決定する。

- (1) 学位論文発表会で、口頭での発表と質疑応答が論理的にわかりやすく行われたこと（必須）。
- (2) 決められた中間発表会で発表していたこと（必須）。
- (3) 研究成果の全部又は一部を、関連する学会等（特許も含む。）で発表していること（必須ではない）。

## [博士課程及び博士後期課程]

### 1. 評価項目

学位申請論文の審査には、審査委員会委員が次の 6 項目について別表の評価基準に基づいて評価する。

- (1) テーマのたて方：独創的、具体的で明確なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されていること。
- (2) 研究の背景：信頼できる複数の情報源から、これまで明らかになった知見や課題を整理し、自分が明らかにしようとしている研究目的に関連付けて活用していること。
- (3) 研究の方法：複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしいいくつかの研究方法をうい、明確な分析の視点を示していること。
- (4) 研究の結果：実験データや調査などについて整理と解析が十分になされ、焦点に沿って研究した内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型（パターン化）の発見など様々な観点から検討していること。
- (5) 考察と結論：研究から明らかになったことについて整理し、専門基礎知識（自分の専門分野の概念や枠組み）を効果的に用いて、独自の考察を展開し、論理的に説明できていること。
- (6) 参考文献：適切に引用していること。

### 2. 評価方法及び判定

- (1) 各審査委員が、別表の評価基準に基づいて各評価項目を 5 点、3 点、1 点で評価する。
- (2) 論文審査では、全ての審査委員が 20 点以上（30 点満点）をつけたことをもって、論文審査を終了とし研究科委員会に報告する。なお、審査委員により著しく評価点に差異がある場合は、新たに審査委員 1 人を追加し、再評価を行った上で、審査委員長が総合的に判断をする。

### 3. 審査における必須要件及び最終判定

次の 3 つの要件を満たし、当該分野に関する十分に広範な知識を有し、自立して研究を行う能力と研究結果を外部に発表（国際学会等）できる能力を備えているかどうかの評価を行い、研究科委員会において博士の学位授与の最終的な合否判定を決定する。

#### (1) 学位申請受理条件

- ①学位論文の全文又は一部が既に公表されていること又は学会誌等に投稿し受理済であること。（全専攻課程博士、獣医学専攻論文博士）
- ②学術誌に印刷公表された論文を 2 編（1 編以上は英文）以上有すること。但し、社会系の場合は、英文を必須としない。（獣医保健看護学専攻論文博士）
- ③学位論文の全文又は一部が既にレフリー制度のある学術誌に筆頭著者として 3 編以上（2 編以上は英文）を印刷公表（受領済も含む）されていること。但し、社会系の場合は、英文を必須としない。（応用生命科学専攻論文博士）

- (2) 学位論文発表会で、口頭での発表と質疑応答が論理的かつ明確に行われ、審査員及び聴衆を納得させたこと。

- (3) 決められた中間発表会で発表していたこと。（獣医保健看護学専攻課程博士・応用生命科学専攻課程博士）

**【改廃】**

この「学位論文審査基準」の改廃は、研究科委員会の承認を必要とする。

附 則

1. この学位論文審査基準は、令和2年4月1日から施行する。

【別表】

学位論文評価基準（博士前期課程）

点数・評価項目	5	3	1
テーマのたて方	明確で、実現可能なテーマが設定されており、それについての適切な仮説や調査項目がわかりやすく示されている。	実現可能なテーマが設定されており、一般的かつ適切な仮説や調査項目が示されている。	曖昧なテーマが設定されており、仮説や調査項目が分かりにくい。
研究の背景	複数の情報源から、これまでに明らかにされた先行研究の知見を整理して示し、自分が明らかにしようとしている内容と関連付けている。	複数の情報源から、これまでに明らかにされた先行研究の知見を整理して示している。	限られた情報源から、これまでに明らかにされた先行研究の知見を列挙して示している。
研究の方法	研究の目的とテーマにふさわしい複数の研究方法を用い、明確な分析の視点を示している。	研究の目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究の目的とテーマに関連した研究方法を用いているが、分析の視点が明確になっていない。
研究の結果	実験や調査で得られたデータを図や表を有効利用して組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型（パターン化）の発見など様々な観点から解析している。	実験や調査で得られたデータを図や表を利用してまとめ、類似点・相違点・パターン化など何らかの法則性を示そうとしている。	実験や調査で得られたデータを列挙しているのみであり、類似点・相違点・パターン化など何らかの法則性を検討することが十分になされていない。
考査と結論	研究から明らかになったことについて整理し、専門基礎知識を効果的に用いて、論理的に説明できている。	研究から明らかになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて説明できている。	研究から明らかになったことについての記述はできているが、専門基礎知識を用いて、論理的に説明ができていない。
参考文献	研究内容との関連性や研究着手の経緯、研究方法、考察の展開において、適切な参考図書や参考文献が必要な数だけ引用されている。	研究の背景における先行研究や研究方法における適切な参考図書や参考文献が必要な数だけ引用されているが、考察の展開において、十分には引用されていない。	適切な参考文献が十分には引用されていない。

学位論文評価基準（博士課程及び博士後期課程）

点数・評価項目	5	3	1
テーマのたて方	独創的で、明確なテーマが設定されており、それについての適切な仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	実現可能なテーマが設定されており、それについての適切な仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されているが、仮説や調査項目が分かりにくい。
研究の背景	信頼できるさまざまな情報源から、これまでに明らかにされた先行研究の知見や課題を整理し、自分が明らかにしようとしている内容に関連付けて活用している。	複数の情報源からこれまでに明らかにされた先行研究の知見を示し、整理しているが、自分の研究テーマとの関連性を十分に示していない。	限られた情報源から、これまでに明らかにされた先行研究の知見を、何かしら紹介しているが、自分の研究テーマとの関係が乏しい。
研究の方法	研究のテーマにふさわしい複数の研究方法を用い、明確な分析の視点を示している。研究内容を深化させる分析手段が示されている。	研究の目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。画一的な分析手段となっている。	研究の目的とテーマに沿った分析の視点が十分に示されておらず、簡単な分析手段しか示されていない。
研究の結果	焦点に沿って実験や調査で得られた実験データを図や表を有効利用して組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型（パターン化）の発見など様々な視点から解析している。	実験や調査で得られたデータを図や表を利用してまとめ、類似点・相違点・パターン化など何らかの法則性を示している。	実験や調査で得られたデータを列挙しているのみであり、関連付けてまとめることができていない。
考査と結論	研究から明らかになったことについて整理し、専門基礎知識（自分の専門分野の概念や枠組み）を効果的に用いて、独自の考察を展開し、仮説との整合性など、論理的に説明できている。	研究から明らかになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて説明できているが、独自の考察がやや不十分である。	研究から明らかになったことについての記述はできているが、独自の考察が十分にできておらず、論理的な整理がついていない。
参考文献	研究内容との関連性や研究着手の経緯、研究方法、考察の展開において、適切な参考図書や参考文献が必要な数だけ引用されている。	研究の背景における先行研究や研究方法における適切な参考図書や参考文献が必要な数だけ引用されているが考察の展開において、十分には引用されていない。	適切な参考文献が十分には引用されていない。